

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

若きらとも播き終えて腰を反らすあとのぐらいいこにされるか 阿部みさ子
 土に触れ土の匂いのやさしさを捨つることなく年齢重ねゆく 大槻 きよ
 雨はひそと綻ぶ花芽うながして夜の帳を過ぎてゆきたり 寺崎 悦子
 足奏えてふるさとをみることかなはねば息子はわれのため写真撮りて来 佐藤 すみ
 野球のルール恥ずかしながら知らざれど侍ジャパンの勝利はうれし 山田 濱
 長引ける熱に怯ゆるひとり身に亡夫の植ゑしみかん芽吹く見ゆ 阿部はぎの
 遠き日に亡母の作りし餅を競いてたべし 平間 久子
 事おもい出す 子どもの頃桑の実取り合ひし柔畑はりんごや桃の今花ざかり 八嶋 正子
 無人駅のホームに立ち寄りゆけば桜老樹は見事満開 佐藤キワ子
 ランドセル赤青黒と一列に片手を上げて渡る 大庭 良子
 十字路

俳壇

遠藤 秋尾 選

ひかり舞ふめぐるしきや番蝶 岩松 隆志
 雨上がり開花一番蝶桜 岩澤 伍峯
 牡丹の日増し膨らむ重さかな 高子うこん
 成長を桜便りの紙にのせ 遠藤 行夫
 風を切る少年の手の風車 跡部祐三郎

白石の春の風物詩はいろいろありますが、そのひとつに白石高校の応援練習も挙げられると思います。母校愛をたたき込まれるあの独特な雰囲気は、経験した方々ならよく分かると思います。「これからは高校生だぞ」という自覚を持つ、最初の体験かもしれない。しかしながら、当時は毎日の昼休みがとて苦痛な時間でした。校歌、旧制校歌、応援歌が数曲、勝利の歌に凱歌、さらには遠征歌、記念歌まであり、そして3拍子に7拍子などの振り……。これらを応援練習までに覚えていかないとプールサイドで個別練習。そう簡単にはできません。そんな中で、おかげで今でもそれなりに覚えているものです。4月の入学から定期戦が終わるまでの間、昼と放課後には市役所まで応援練習の声や太鼓の音が聞こえてきます。その音は、懐かしさとともに「頑張れ！」と気を注入される気持ちになるから不思議です。このような伝統行事は、皆さんの母校にもあり良き思い出となっているのでしょね。伝統という流

風間市長の風のそよぎ

「白角定期戦」

白石高校剣道部には、「若竹会」というOB会組織があります。母校の剣道部への援助、OB会員交流や物故者供養を行っています。その総会懇親会の最後は、肩を組んでの凱歌の合唱と母校へのエールです。この若竹会の太田会長は、来年度に新しく開校する白石高校の剣道部に対しても、白石女子高校の剣道部OGと共に、今と変わらぬ支援を行うことを発表されています。私もその考えに賛同しています。

たなページを付け加えながら、人は成長していくのでしょね。昭和38年に始まった白角定期戦。通算総合成績は、白石高校の30勝13敗3引き分け。私が所属していた白石高校剣道部は、第1回から私の代まで16連敗。翌年に初勝利を挙げ、その後は一進一退を繰り返していると思いきや、通算成績が5勝41敗になります……。でも、そのときの良き経験が部員には刻み込まれていることでしょう。

剣道という縁で集まった両校のOB・OGの力が、新剣道部の一助になれば素晴らしいことだと思います。来年からは、種目は変わっても、男女共に参加できる「白角定期戦」として、新たな伝統の始まりを迎えてくれることを願っています。定期戦は諸大会とは違い、独特な雰囲気を持つ貴重な大会です。新白石高校に入学した生徒にも、ぜひ体感してもらいたい行事のひとつです。男子校として最後の定期戦が5月9日に開催され、白石高校が大勝利を収めました。

話は変わりますが、サボることを「油を売る」というのはなぜか、皆さんご存じですか？

5月号の答え

サラリーマンというのは、「Salary」と「man」を組み合わせて作られた和製英語です。現在では給料という意味になっている。語源は、ラテン語の「salar」＝「塩」です。古代ローマ時代、兵士の給料は「塩」で支払われていました。江戸時代に武士が給料をお米でもらっていたのと同じです。

柳壇

四電 英夫 選

咲き暗む花の大樹をくぐりけり 服部 忠孝
 朝明けや鐘のひびきに日脚伸ぶ 遠藤 忠臣
 淡茶入れ今日は一人の桜餅 阿部はぎの
 宵越しの雨が上りて初音聞く 福原 峯子
 雉子親子窓に近づくとケアハウス 跡部 祐子
 評 一句目、「ひかり舞ふ」とは黄蝶かと思ふ 阿部はぎの
 う番蝶のせわしき。長閑な風景の一句。
 二句目、常林寺の桜でしょうか。古木に咲く花に感動された一句。
 三句目、牡丹の日ごとに膨らみ増す昨日より今日と。「重さかな」の下五が成功した。
 四句目、下五の「紙にのせ」を「消息に」とすれば、便りの内容がよく分かる作品となるのでは。

評

一句目、子どもの寝顔は、いつまで見ても飽きない。この子たちに平和な緑の地球を残すのは、われわれに課せられた約束だろ。
 二句目、5月の空はどこまでも青く澄んでいる。こいのぼり、揚げひばり、麦畑……。そんな情緒をほうふつさせる、すがすがしい叙情の句。
 三句目、「ハイにも要らず」と言うが、返事のわりには行動が伴わないことも多い。返事とともに腰を上げたい。自戒の一句。



国際コーナー

International Corner

ホームステイの素晴らしさ

10年以上前に初めて日本に来たとき、私は留学生で、宿泊した5週間はすべてホームステイでした。皆さん、ホームステイについてどう考えているでしょうか。「楽しそう」とか、「少し怖い」とか思ったりしませんか？ 実際、私もこんな気持ちを経験しました。怖いのは、誤解が生まれるときや、相手が何を言おうとしているか何も分からないときです。こんな経験をして、少しづつ分かった時期もありましたが、本当にホームステイというのは、素晴らしいものだと思います。白石では、ホームステイが15年くらい前からごく普通のことになってきました。その理由のひとつには、オーストラリアのハーストビル市と姉妹都市関係を結んでいることにあります。白石の多くの家族が、見知らぬ外国の子どもたちをホームステイで家に受け入れ、「ただいま」、「お帰り」、「ごちそうさま」、「おかわり」、「お願いします」といった交流をしてきました。しかし、「日本語が全くしゃべれない留学生に当たったらどうすればいいですか？」と、不安を感じる人は少なくないと思います。

答えはとてもおもしろいんですよ。皆さんのかわいい娘・息子さんに任せることです。そうすることで、皆さんの子どもたちは、留学生とのふれあいを楽しみながら英語をしっかりと身に付けることができますよ。分からないことがあるからこそ、子どもたちは、この経験を通じて以前にはなかった自信がつくと思います。これがホームステイの一番の素晴らしいことなのではないかと思えます。今年もまた、白石の皆さんにはホームステイに参加するチャンスがありますよ。グリーンリープス使節団に興味をお持ちの方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。お待ちしております。●Eメール：koryu@city.shiroishi.miyagi.jp ※グリーンリープス使節団とは？ 姉妹都市ハーストビル市の中学生などが白石市を訪れます。留学生は、市内の一般家庭でホームステイとして受け入れてもらい、市内中学校への体験入学や交流会、市内見学などを通じて交流親善を図ります。

まちの話題

～あの日、あの時～

白石高校大勝利！ ～男子校最後の白角定期戦～

5月9日、白石高校を主会場に「第47回白角定期戦」が開催されました。昭和38年から毎年続くこの戦い。白石高校と角田高校が「仙南の雄」を決する伝統の戦いに、両校生徒の家族やOBなど、多くの方が観戦に訪れました。気温25度を超える夏日となったこの日。各会場では、気温以上に熱い戦いが繰り広げられました。今年も、野球や剣道、バレーボールなど7種目で対校戦が行われ、白石高校が5勝1敗1引き分けと見事勝利を収めました。結果的には大差でしたが、種目別ではどの試合も紙一重の勝負。中でもひととき輝いていた競技が剣道でした。昨年まで22連敗中。通算成績も5勝41敗と大きく負け越し、今年も角田高校優勢という前評判の中、4勝4敗2引き分けという接戦の末、本教勝負とな

り6対5で見事勝利。試合後のうれし涙と感激は、選手たちの一生の思い出となり、宝となることでしょう。来年度から共学となる白石高校にとっては、今回が男子校最後の定期戦。有終の美を飾りました。



▲手に汗握る攻防を繰り広げた剣道会場